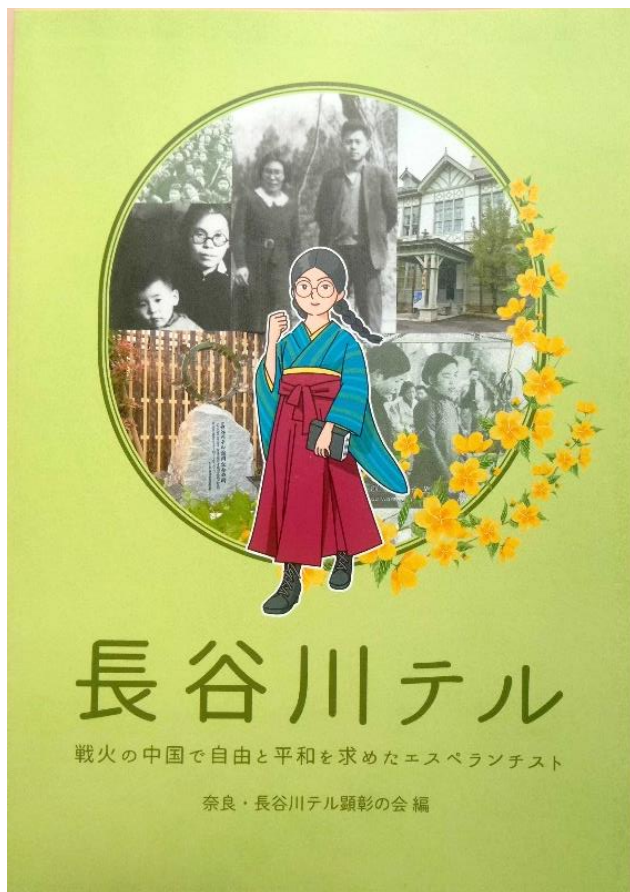


可愛らしい中にも 凛とした知的なテルの姿に



ブックレット『長谷川テル』の表紙

あづみ氏らからも、「女子大生にも手にしても

ています。

また、ブックレットの執筆にあたった岸下

「自分の生き方を貫き通した強さには感服」、「ヴェルダ・マヨの歌に、反戦平和の願いを託して歌い続ける」、「ブックレット『長谷川テル』戦火の中国で自由と平和を求めたエスペランチスト」の発刊は奈良・顕彰の会の豊かな発展を象徴するもの」など、4月13日に開いた、第2回「長谷川テル訪問記念の碑」碑前祭を記念して発売したブックレット『長谷川テル』に対する感想が寄せられています。

新しい史料も使って読みやすさにも工夫

自分の生き方を貫き通した

強さには感服

ヴェルダ・マヨ通信
ヴェルダ・マヨ(緑の5月)は長谷川テルのエスペ란チスト名

NO. 62

2025.5.16

奈良・長谷川テル
顕彰の会事務局

☎/F0742-61-7194

- ・岸下あづみ氏のコメント . . . 2 ページ
- ・西田千津氏のコメント . . . 3 ページ
- ・田辺実氏のコメント . . . 5 ページ
- ・西久美子氏のコメント . . . 5 ページ
- ・ブックレットを読んだ感想等 . . . 7 ページ

らせるよう表紙のデザインに工夫しました。」「読みやすさにも努力しました。」などの想いも書いていただきました。

注文が相次ぐ

ブックレットは好評で、50冊（日中和歌山県本部）、一次分として30冊（日中大阪府連）をはじめ、10冊、5冊とまとめて取りよせ普及に協力していただいている団体・個人が相次いでいます。

当「ヴェルダ・マヨ通信」では、ブックレットの編集に携わっていただいた執筆陣の想い、手に取って読んでいただいた方の感想、普及に取り組んでいただいている団体・個人の方々にその経験を語っていただきます。

奈良・顕彰の会オリジナルのブックレットに

「女子大学生が手に取りたくなるブックレット」をめざす

岸下あづみ

私は勤務先である株式会社きかんしコムのスタッフとともに、ブックレットの編集とデザインを担当しました。このブックレットは、大きく3つのブロックに分かれています。1章が西田千津さんによる長谷川テル評伝です。新しい史料も踏まえてテルの人生を立体的にいきいきと記述していただきました。2章が田辺実さんによるテルが治安維持法違反で検挙された当時の社会背景についてで

す。奈良の反戦運動についても記述していただきました。3・4章は西久美子さんによる奈良・長谷川テル顕彰の会の取り組み、碑の建立についてです。こうした形でまとめられるのは初めてだと思います。テルという存在を媒介として人の輪が広がっていく経過がよくわかります。



岸下あづみ氏

私はというと、皆さんの手が届かない隅の方を整えるべく、付録のマップや般若寺の解説、全体のとりまとめや校正を担当させていただきました。

タイトルはテルという人を短く言い表すには

どんな言葉が適切か、編集委員で議論して決めました。

こうした充実した内容で、先行する長谷川テルに関する書籍とはまた違う、奈良・顕彰の会オリジナルのブックレットに仕上がったと思います。

デザイン面では、「女子大学生が手に取りたくなるブックレット」をめざしました。本の内容的には難しいところもあるのですが、表紙はハードルを低くすることを心がけました。イラストはオリジナルで、可愛い中にも凛とした、知的なテルの姿にしたい

とデザイナーやイラストレーターと話しあいました。

今回、京阪奈情報教育出版を通じて出版物として発行しており、今後は奈良女子大学の生協やウェブ書店等での販売も計画しています。（書店卸しの部数は少ないので）あくまで普及の中心は会員・賛同してくださる皆さんになりますが、これまで縁がなかった方に書店でも手にとっていただけることを期待しています。

心が熱くなるような放送

ブックレット『長谷川テル』第1章を担当して

西田千津

私は、「第1章 戦火の中国から反戦平和を訴えた長谷川テル」

を担当しました。これは、昨年富士国



西田千津氏

際旅行社さんが企画した「長谷川テルの足跡を訪ね平和と人権を考える旅」の参加者に渡す資料として書いた原稿が元になっています。その原稿は、昨年、第1回碑前祭の資料集に掲載していたのですが、その時

は、顕彰の会の活動に参加されている方々からは、ありがたい感想をいただいたりして嬉しかったのですが、活動に参加していない友人に読んでもらった時には、「頑張って読んだで」（つまり、読みにくかった）という答えが返ってきたり、ある友人は、読みながらコ

クリコクリ…こんな感じだったので、次に書く時は、「読みやすさ」を追求しようと思いました。

そして1年後、碑前祭でブックレットがみなさんに配られました。私は、活動に参加していない友人たちにも渡したり買ってもらったりしています。今度はどんな感想が来るのかとドキドキでしたが、第1章について、「一気に読めた！」「資料にそって丁寧に綴られたテルさんの姿が心に響いてまいりました」といった嬉しい感想をいただきました。きかんしコムさんが、ページをうまくアレンジしてくださったことが大きいと思うのですが、私自身も、いろいろと工夫したので、その甲斐あったなと感慨無量です。それではどんな工夫をしたのかを、以下に述べたいと思います。

新出の一次史料を惜しみなく使った

ひとつめの工夫は、新出の一次史料を惜しみなく使ったということです。

たとえば、テルが「政治家になる」と胸を張った少女時代のエピソードは、中国で発行された雑誌『現代婦女』（1994年10月号）所収のテルの作品「ファシスト統治下の日本」の中に書かれています。テルは、この作品の中で、わかりやすい例を使って、日本の女性蔑視とファシズムとが、根は同じだということを喝破しています。戦時中の日本で、女性解放を叫んでいた女性たちが、日本のファシズム政権に絡めとられ、女性の戦争参加を社会進出と評価していたことと比べると、テルがいかにグローバルな視野をもってい

たかがわかります。私はこの作品を中国のサイトで見つけたのですが、従来の作品集には収録されておらず、日本では初出だと思います。

そして、表紙にアレンジした重慶の国際女性デーの演説の写真『良友』画報1940年4月号も、日本では知られていなかった貴重な写真です。この写真を偶然見つけた時は、本当に飛び上らんばかりの気持ちになりました。

また、私は、国立公文書館アーカイブに収められている重慶放送の傍受記録を調べて、テルが演説した国際女性デー集会の1年前にあたる、1939年3月の、国際女性デーについての放送を見つけました。内容から考えて、この放送のアナウンサーはテルだと確信したので、ブックレットに放送の一部を掲載しました。心が熱くなるような放送を味わっていただければ幸いです。

そのほか、戦後の日中友好の夢を描いた「二つの天国」も初出ですし、不二出版『日本人民反戦同盟資料』から、鹿地亘・池田幸子に宛てたテル直筆の手紙も掲載しました。この手紙の存在は、1998年に、エスペランチストの柴田巖さん（故人）が指摘していたのに、これまで評伝の中に引用されることはなかったのです。テルは、あまり達筆ではなかったようですが、この手紙から、漢口へ行って抗日運動に加わりたいという一途な熱情が伝わってきます。

実は、横浜を出港して上海に着いてから、広東でスパイ嫌疑で捕まるまでのテルの事績は、『戦う中国で』でテル自身が詳細に記述していますが、その後の事績については、切れ切れの情報しかない

く、それをつなぐ作業が必要だと私は感じていました。今回の評伝は、新史料が出てきたこともあり、だいぶつながったかなと思います。しかし、まだまだわからない謎も多く、私たち顕彰の会で秋に予定している「武漢・重慶の旅」で現地に行けば、その謎を解くヒントが得られるのではないかと期待しています。

ジェンダー差別に悩み苦しむ「ふつうの」女性

2つめの工夫は、テルの弱さを描くということです。戦火の中国で日本のファシズムに立ち向かった長谷川テルは、ある意味、超人的な女性ですが、彼女もやはり、私たちと同じように、勉強、仕事、恋愛、結婚、出産、育児、家計、病気といった日常生活を経験し、ジェンダー差別に悩み苦しむ「ふつうの」女性でした。私は、このブックレットでは、それを描きたいと思いました。

治安維持法による検挙、女高師の退学という挫折を経験して、教師の道を断たれたテルは、仕事もなく、自分は何のために生きているのか、これからどうしようかと、将来について相当悩んでいたようでした。そんな中でプロレタリア・エスペ란チの仲間と親交を深め、マルクス主義思想だけではなく、ザメンホフのホマラニスモ（人類人主義）にも影響を受け、日本の侵略戦争が民族差別、女性差別の延長線上にあることを強く意識します。テルは、エスペランチストだったからこそ、中国に行ってから、日中の女性が民族を越えて団結し女性の敵ファシズムと闘おうという理想を、自信をもって主張できたのではないのでしょうか。

顕彰の会に関わるみんなで作った

第1章以外のことは、他の方が書かれると思いますが、私も少しでも感想を述べさせてください。まず表紙は、緑川英子の緑だし、テルにそっくりな少女のイラスト、いいですよ。第2章奈良の8・30事件も興味深いし、顕彰の会の活動を紹介する3章・4章、長谷川テルの歌の楽譜、奈良長谷川テルマップ…この本にしかありません。そして、口絵の記念碑除幕式や碑前祭の写真を見ていると、このブックレットは、顕彰の会に関わるみんなで作ったんだなと、しみじみ感じます。テルの顕彰事業に参加するようになって、大切な仲間がいっぱいできました。史実を明らかにしていく楽しさをかみしめながら、これからも活動に参加していきたいと思っています。

治安維持法違反で弾圧された当時の社会状況の解明に努力

田辺実

私は、第2章を担当し、長谷川テルらが治安維持法で弾圧された当時の社会状況を奈良県を中心に明らかにすることをめざしました。



田辺実氏

奈良県の社会状況は、当時の国内外情勢の現われですが、その具体的内容を当時のマスコミ報道や、警察の記録などで残された資料を基に示す努力をしました。

当時の新聞報道の切り抜きは、奈良県立図書館が所蔵しているマイクロフィルムを丹念に検索して検出したものを使わせていただきました。具体的には、治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟奈良県本部（以下、「国賠同盟」）の調査部が、『奈良県の治安維持法犠牲者名簿』を作成する取り組みのなかで確保されたものを提供していただいたものです。

長谷川テルが学んだ当時の奈良女子高等師範学校の様子は、現代史研究家の故鈴木良立命館大学名誉教授が、「不屈」奈良県版（「国賠同盟」の機関紙）に発表された「奈良県における進歩と反動」と、『奈良女子高等師範学校とアジアの留学生』（奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター編）に学び、引用する形で使わせていただきました。

私は、それらを項目ごとにまとめたのですが、西田千津氏が全体をアレンジして第2章を完成していただきました。

注目していただきたいのは、ブックレットの31ページに「全国の最前線にあった奈良県の反戦運動」です。全日本無産青年同盟奈良県支部は793人を擁し、東京に次いで全国第2位のメンバーで、全国の最前線で闘っていたことが浮き彫りになったのではないかと自負しています。奈良県民の誇るべき闘いの1ページです。

顕彰碑建立をめざした7年間の活動を伝えたい

西久美子

私は、第3・4章を担当し、奈良長谷川テルマップのいくつかの

地点の探索を行いました。

第3・4章は、奈良・長谷川テル顕彰の会が発足した2017年から2024年までの7年間の事業の足跡をまとめ、読者に奈良県における顕彰活動の現在地を紹介することが目的です。当会の顕彰



西久美子氏

事業の方針は、年1回開催される総会で決まりますが、日常的にその方針を具体的に推進していくのは、2カ月に1回開かれる推進委員会です。推進委員会と推進委員会の間に、事務局会議を持ち、決まったことを遂行したり、推進委

員会への提案事項を検討します。コロナ禍の3年間は、総会が持てない時期もありましたが、推進委員会と事務局会議は休まず続けてきました。ヴェルダ・マヨ通信は、2024年4月の第1回碑前祭までの間でも51号を数え、会議資料や総会資料は、9月の第4回総会までとしても膨大な量がありました。それらをもとに、十数ページに簡潔にまとめるのはなかなか大変で、細かいことを書きすぎたり、内容が改訂されているのに忘れていたり、ブックレット編集委員に助けてもらってやっとできあがりました。なるべく各章の項目の内容が分かりやすいようにとサブタイトルも付けてみました。また、全体の編集に関わっては、推進委員会からも、表紙デザインや写真資料の選択など、多くの意見を頂きました。

一般民衆や労働者に寄り添い

民主主義的諸権利の獲得のためにも

第3章の事業の意義と経過報告の説明は、簡単すぎて、初めて読む人には理解しづらいところがあつたかも知れません。長谷川テルの顕彰事業の意義については、これまで主としてテルの中国での反戦活動を通じた思想や行動に光が当てられてきましたが、第1章の評伝でも明らかなように、テルが女性の権利獲得や女性差別からの解放運動にも力を入れていること、世界の子ども達への豊かな想い、一般民衆や労働者に寄り添い、民主主義的諸権利の獲得のための思想にも、今の私たちが学び考えさせられる事が多くあります。その点は、私も勉強不足で十分に伝えられなかったのが反省点です。

長谷川テルについて、各人の思いが生まれてきたらいい

第4章は、長戸恭さんの詩や文章、顕彰碑の説明板のテルの言葉、除幕式に寄せられたメッセージ、坂口紀代美さんの碑の制作への想い、長谷川暁子さんの挨拶など、生の資料や言葉がたくさんあるので、その分リアルに伝わり、自由に受け止めて感想を持つてもらえるのではないかと思います。そこから、長谷川テルについて、平和について、各人の思いが生まれてきたらいいと思います。

第3・4章について、この点はどうなのか、もっと詳細はとかわれる方は、事務局に連絡をいただいて、是非これまでのヴェルダ・マヨ通信を読んでいただきたいと思います。全体として、このブ

ブックレットを足がかりとして、これまでに刊行されているテルについての著作や、これから出される予定もある著作集などに触れていただき、テルの世界を深く知っていたできれば嬉しいです。

当時の奈良が目の前に広がってくる

奈良長谷川テルマップについては、テルのエスペラントの最初の先生である宮武正道の家の探索は、彼の友人だった北村信昭の残した文章から、その場所の特定が始まりました。探索の中で、宮武正道などの史料が、奈良市史料保存館に多くあること、北村信昭の史料も奈良大学博物館に保存されていることなども分かってきました。テルが検挙された奈良警察署も当時の古地図の発見から、今は全然違う場所にあったこと、長戸恭が訪ねた奈良合同労組の場所も、鈴木良先生の残された論文の中の短い文章と、古地図や現地の探索から推定位置が分かってきました。分かってきて、その当時の奈良が目の前に広がってくることはワクワクでした。

長谷川テルのことは、まだまだ分かっていないことが多いです。特に、これからの若い人達に関心を持ち、さらに「長谷川テル」を

『治安維持法一〇〇年』

この3月、歴史教育者協議会編の『治安維持法一〇〇年』が、大月書店から出版されました。この新刊書には、「エスペランチスト・長谷川テル——日中友好のかけはしとなって」と題して長谷川テルも掲載されています。定価本体2,200円。注文先 顕彰の会 事務局

ブックレットを読まれて、感想が次々と寄せられています。紙面の都合でその一部を紹介いたします。

長谷川テルさんについてと当時の状況よくわかる

平塚雅子氏 (奈良・長谷川テル顕彰の会会員)

早速ブックレットを読みました。皆様のご協力で長谷川テルさんについてと当時の状況、顕彰の会の活動がよくわかる冊子ができたと感じしました。

テル・劉仁のお墓参りをした大学のゼミ仲間に普及

湯川誼 (御殿場市)

我々は、ある大学で増淵龍夫先生のゼミ仲間として中国や歴史学などを勉強した。卒業後も勉強止みがたく「たつこの倶楽部」を立ち上げ、門下生20数名で勉強会を始めずでに20年近くになる。

ここ数年はコロナのため休止を余儀なくされたが、この度やっと再開できた。今回は12名が集まったが、全員がすでに75歳以上で老人クラブのような元気がない様子。雑談形式ではあったが、幹事から長谷川テルのことにつき報告した。

以前、この会でテル勉強会と映写会「望郷の星」を観賞したこともあるし、中国歴史探訪旅行で佳木斯にあるテル・劉仁のお墓参りをしたので、参加者はすでに十分な知識を持ち合わせていた。

そこで「第二回碑前祭」に参加した様子を簡潔に話した。また、顕彰の会からいただいたブックレット『長谷川テル』を見せたところ



佳木斯での墓前写真（日本人10名、中国人2名）

2017年7月29日

ろ、すぐに10冊す
べて売切れとなっ
た。まことにありが
たいことでありま
す。

私は本来除幕式に
参加予定ながら、3
月1日に不慮の事故
で3ヶ月半の入院、
その後のリハビリで
いまだに病院通いを
していますが、今回
はどうしても奈良ま
で行こうと決心した
わけです。

今回皆様には初めてお会いしましたが、今後は顕彰の会で再び
お目にかかれることができると思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

ヴェルダ・マーヨの歌に

反戦平和の願いを託して歌い続ける

奈良蟻の会合唱団員 水谷奈美

一人の女性が社会の息苦しさに気づき、社会変革を志し、学ぶ中

で思想形成し、行動する勇氣を持つ過程がよくわかりました。
反戦平和を願う正義の心を持つて権力に抗う勇氣は現在も必要だ
が、テルの時代では、治安維持法という死刑が最高刑の刑罰がある
にも関わらず、自分の意思を貫く勇氣を持ち社会に働きかけた事
は、本当にすごいと思いました。

一人の女性が自立して生きていくのも大変な時代において、確固
とした反戦平和の意思を持ち続けることがどれほど勇氣のいること
か、現在と置き換えても到底真似のできないことだと思いました。
現在に生きる自分は、日常生活を送るだけで精一杯な状態なの
で、学び勇氣を得るため、かなりの努力が必要な状態です。それで
もあきらめないで勇氣を得るためにも学び、できることをし続けた
いと思いました。人間として生まれた以上、弱さもあるのですが、
現実社会においてより人間らしく強い意思を持つて生き続けたいと
思います。長谷川テルやテルに関わる様々な人に勇氣をもらい、生
きていきたいと思っています。今、蟻の会で、長谷川テルの歌として作
られたヴェルダマーヨを歌っています。反戦平和の願いを託したこ
の歌を歌い続けることも私のできることのひとつだと思います。いつ
までも元気で歌い続けられるように頑張りたいと思います。

表紙のイラストも魅力的

テルの生涯やゆかりの地が分かり易く書かれている

中西 とし子（奈良市）

昨日の碑前祭、他の用事で二部を聞けなかったのは、残念でした

けれど、参加して、本当に良かったです（般若寺のお花も綺麗、料理も美味しく、完食！）。色々な方のお話を伺えば何う程、テルさんのような気持ちだが、今、取り分け必要とされていると思いました。こうして、自分もテルさんと繋がっていられることを、嬉しく思います。

頂いたテルさんのブックレットは、表紙のイラストも魅力的で、その生涯やこれまでの会の活動やゆかりの地が分かり易く書かれていて、紹介するのに、とてもいいものが出来たと思いました。奈良女子大の生協の本屋さんにも置いて欲しいですね。中塚明先生がいしたら、授業で取り上げて下さるかも知れないのに、残念です。

10月の武漢、重慶の旅、何とか都合を付けて、今の所、娘（中国語は副専攻）テルさんについては、これからまずはブックレットで勉強！）と二人で参加できたら と思っています。

取り寄せた50冊のブックレット

日中の「不再戦のつどい」などで普及に努力

日本中国友好協会和歌山県連合会 事務局長 石田 文雄

昨日はとても素晴らしい会に参加できたこと、改めて感謝いたします。顕彰会のみなさま、そして、エスplanティストの皆さんの平和に対する熱い気持ちが伝わり、とても良い時間を過ごせました。

私の地元、和歌山県海南市に1913年（長谷川テルと同時代）生まれのエスplanティスト田中正美さんが生きていたら、とても

喜んでくれていたと思います。日中友好協会の本部から、今年度は戦後80年、治安維持法100年の節目に 相応しい行事を提案されていきますが、長谷川テルの



石田文雄氏

映画「望郷の星」の上映会を企画したことが本当に良かったと思っています。ありがとうございました。

それで、昨日もお願いしました。顕彰会が作成された長谷川テルのブックレットを50冊注文したいと思っています。（以上、碑前祭の翌日のメール。）

（以下、5月14日の2回目のメールから） 注文した50冊の内、30冊は6月7日の伊都教育会館での「望郷の星」上映会で販売する予定です。残りの20冊の内、すでに10冊は販売済みです。望郷の星の上映会のチラシを見て、ブックレットを買いたいという人もいます。伊都教育会館6月7日の上映会に続き、8月15日には海南市で日中の「不再戦のつどい」に合わせて上映会を予定しています。

一般に流布されているものとは異なる

もう一つの視点が多くの人々の共感とつながっている

滝永登（さいたま市）

ブックレットをお送りいただきありがとうございました。一言メッセージでも述べたとおり、本会の活動は碑の完成をもって、その後は「縮小再生産」に向かうものと半ば危惧していました。そうな

らなかったのは、顕彰の会の事務局の皆様の努力と献身ゆえではあります。それに加えて、テルの生涯を通して現今の日中関係をながめてみると、一般に流布されているものとは異なるもう一つの視点が多くの人々の共感とつながっているのかなどと勝手に思っています。今後も微力ながら、皆様と共に歩んでいきます。そのためにも、お互いに元気で。

内容の水準は高く引き締まったものになっている

川合 潔（大津市）

ブックレット『長谷川テル』を送っていただきありがとうございます。写真（カラー、白黒）が多くてレイアウトも良く、とても読みやすいつくりになっていますね。それでいて、書かれている内容の水準は高く引き締まったものになっていて、とても感心しました。いつも丁寧にお礼・報告もいただいて、カンパのしがいがあるというものです。次回も楽しみにしています。いかなるところでも、戦争はしないと思っております。

ブックレットの注文先

ブックレットの注文先は奈良・長谷川テル顕彰の会事務局（電話・F0742・61・7194）です。

このブックレットを広く普及するために皆さんにご協力を訴えています。1冊の本体価格は1000円ですが、普及のため、5冊以上普及していただける方には1冊800円でお渡ししています。可能であればご協力をお願いいたします。

多くの方の募金に支えられ

第2回碑前祭を開催、ブックレットの刊行実現

第2回碑前祭に際してお願ひした「長谷川テル顕彰事業推進募金」には、106名の方から合計707,018円を寄せていただきました。ここに募金に応じていただいた方のご芳名（5月1日現在、敬称略、アイウエオ順）を記し、感謝の印いたします。

秋山勝彦 浅川保 浅田美奈子 浅野千明 東良江 有本秀子
栗田育治 池田隆 石田隆子 伊藤恵美子 稲次征人 稲次直樹
上農百合子 大石裕子 大川正治 岡田知子 岡谷よし子 岡田博
治 奥村功 小澤百合子 小野節子 加藤宣之 川合潔
岸下あづみ 北林ふみ子 聞間元 国富智子 窪田尚 熊田眞幸倉
橋佳子 倉橋祥八郎 黒田貴子 景興宇 小池イヨ子 後藤かずみ
小林きよ 小林将夫 小牧薫 小室仁弥 佐々木茂純 澤田博 澤
野井公夫 塩谷章次 清水英孝 白川嘉秀 杉林晴行 園部勝章
滝永登 竹村照雄 田中澄江 田中敏博 田辺実 谷原一安 田原
隆子 辻本ひで子 手原三郎 寺島俊穂 寺田理子 董暁 豊田
保子 中島枝美子 中西とし子 永松孝志 中村大真 中森功 二
木徹 西久美子 西田志保子 西田千津 幡野利雄 濱中達也
林隆 林秀子 平塚雅子 平松悦雄 平山榮子 福寫繁男 藤田茂
子 堀好子 松岡敏之 松四佐代子 松下稔 松下哲子 松下光人
松本節子 眞殿天童 水谷和宏 水谷奈美 水沼安美 溝川悠介
光吉道子 峯克彰 峯ゆみ枝 三村純子 宮城恭子 村田和代
森啓充 森川美貴子 山下善昭 山田奉子 山村幸穂 山村弘茂
山本恒人 湯川誼 渡辺 武

黒田貴子先生の記念講演特集の「通信」NO・61に共感の声

山本俊子（福島会津）

「ヴェルダ・マリーヨ通信」NO・61、黒田氏講演の情報をありがとうございます。日本史を学ばせて頂きました。プリントして、友人達に読んでもらう予定です。

佐々木茂純（奈良市）

黒田先生のお話は平和教育の見本だと思います。先の戦争における史実を直視し、正しい歴史認識を持つことが日本国民の義務です。我々日本人は、歴史に学ぶことを忘れてはなりません。

中西とし子（奈良市）

ヴェルダ・マリーヨ通信NO・61黒田氏講演特集、有難うございました。生徒さんたちのシッカリした感想も心強く拝見しました。治安維持法下のむごい事実、国内はもとより、韓国、中国、そして、台湾では、さらに酷かったと思うと、胸が詰まります。黒田先生のように、しっかり伝えていくことが、大事ですね。

黒田貴子先生からもコメント

素敵なヴェルダ・マリーヨ通信！宝物にします。ありがとうございます。長谷川テルの授業のことは、夏の歴教協全国大会でレポートします。治安維持法のこと、顕彰事業を通してテルのことを広めようとされていることの大切さについて伝えたいと原稿を検討しているところです。自分の出来ることを、しっかりとやっていこうと思います。

編集後記

当「通信」は、4月13日に開催した第2回「碑前祭」に際して、発表・発売したブックレット『長谷川テル』についての特集です。

奈良・長谷川テル顕彰の会は、「長谷川テル訪問記念の碑」の完成を成し遂げた次の重要課題の一つとして、ブックレット『長谷川テル』の制作をめざしてきました。『長谷川テル』は、長谷川テルに関わる新たに検出することができた第一次史料も駆使し、新たな評伝を世に伝える内容となっています。同時に、「長谷川テル訪問記念の碑」の建立に至る経緯と顕彰事業の内容、般若寺との所縁など、ハンディな総合的なガイドブックとして大きな力を発揮することを期待しています。

「記念の碑」は、般若寺境内にあつて、全世界にむかつて長谷川テルの気高い平和の訴えを発信し続ける一方、ブックレットは広く普及されることによって、長谷川テルの業績を詳しく伝える役割を果たすに違いありません。「記念碑」も、ブックレットも全国の多くの方の募金によって支えられ実現しました。第2回碑前祭にあつて、「長谷川テル顕彰事業推進募金」にご協力を頂いた方には、贈呈する措置を取らせていただいています。

“台湾有事”がことさら喧伝され、“新しい戦前”否“新しい戦中”を許さないため、日中不再戦の誓いを今こそ全国民的な声にする一端を担えたらと決意をあらたにしています。

奈良・長谷川テル顕彰の会 事務局長 田辺実